



平成27年度 信頼される学校づくり推進事業(生徒指導総合研修会)における

ミドルリーダー研修会

担任力の向上と授業に専念できる環境改善を目的としたミドルリーダー研修会では、今年度「生徒指導」に特化し、早稲田大学河村 茂雄 教授よりご指導いただきました。



第1回 (6月24日)

講話「学校全体で進める学級経営を基盤とした児童・生徒の指導」、「学校の教育力を高める校内教員体制」

理想の学級集団づくりには、ルールとリレーションの確立が大切であることを踏まえたうえで、Q-Uの結果の具体例から見える学級の特徴、クラスの雰囲気について説明していただきました。そして、適切にアセスメントして対応することの大切さについて教えていただきました。また、Q-Uの結果の具体例を活用しながら、その中で、各学校の教員組織を協働・同僚性、自主・向上性の確立度からみて、グループで意見交換しました。各学校の教員組織の現状から、ミドルリーダーは何をすべきかを考えることができました。

～参加された先生方の声～

- ・Q-Uの活用法について、曖昧だったところが、自信を持って見ていけるようになりました。
- ・学級集団のつくり方など、子どもの実態を調査し、全職員で実態を共有したうえで、具体的な対応策を考えていきたい。
- ・ミドルリーダーとして、自覚をしっかり持って、リーダーシップを取っていくことが大切だと改めて感じました。

第2回 (9月9日)

演習「Q-Uを活用した学級集団づくり～具体的事例を通して」



河村先生より提示されたあるクラスのQ-Uの結果と担任の先生の報告書をもとに、「学級集団づくりアセスメント・対応策シート」で分析を行いました。そして、その結果をどのように見取り、対応していくかについて、グループで話し合いを持ちました。さらには、自分の指導について振り返ったり、児童・生徒の「見取り」を共有したりして、チームで指導にあたることの大切さについて学ぶことができました。

～参加された先生方の声～

- ・授業の取組みが、集団づくりの基本であることがわかりました。
- ・具体的事例を通して、自分達で分析し手立てを考えていく演習を通して、分析の仕方、見方が分かり、すぐにクラスの分析に役立ちそうです。
- ・あたり前だと思っていることをあたり前とせず、自分の指導を見直し、子どもを認めていきたいと思いました。

いじめ発生予防研修会（信頼される学校づくり推進事業） 「情報モラル研修会」

8月7日（金）南陽市沖郷公民館（南陽市防災センター）において、山形県教育センター 伊藤礼輔 指導主事をお招きして標記研修会を開催しました。伊藤指導主事には、情報モラル教育の再考と題して、演習を交えながら講義をしていただきました。サイバー犯罪の背景、児童・生徒がインターネットやケータイ利用に関して教えて欲しいことと学校が教えること、ペアレントコントロールの必要性など、具体的に分かりやすく教えていただきました。また、実際にモバイル端末（ゲーム機等）を操作しながら演習することで、児童や生徒たちの様子をイメージしながら学ぶことができました。



講義の後には、小・中・高校の先生方による意見交流を行いました。普段あまり話すことのない他校種の先生方が各学校の取り組みや様子などを聞くことで、今後の指導に生かせるヒントを得ることができました。

～参加された先生方の声～

- ・子どもたちが上手に情報機器を使えるようになるためのスキルを身に付けられるよう、働きかけていく必要があると感じました。有効性にも目を向けて指導していきたいと思います。
- ・情報端末に触れながら、ペアレントコントロールを体験できたことは大変参考になりました。保護者と連携しながら子どもたちを育てていきたいと思います。
- ・他校の様子や成果・課題など情報交換ができ、大変有意義でした。自校の取り組みに生かしていきたいと思います。

小・中学校5年経験者研修 —教育事務所における研修—

9月17日（木）今年度の管内5年経験者研修が行われました。5年経験者研修では「学級活動」を中心に研修を進めており、午前中は小学校2校（米沢市立西部小学校、長井市立平野小学校）と中学校1校（高畠町立第四中学校）を会場に、学級活動の授業研究会を行いました。どの授業でも、学級や学校の諸問題を解決するために、じっくり思考しながら自己決定、集団決定する児童生徒の姿が見られました。

午後からは会場を教育事務所に移動し、研究協議を行いました。研究授業から学んだことや明日からの授業で生かしていきたいこと、普段の学級活動での悩みなど、様々な視点で話し合いました。

最後に、國學院大學 杉田 洋 教授（前 文部科学省初等中等教育局 視学官）を講師としてお招きして、「子どもをよりよく育てる教師力・学校力～楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動～」と題して、ご講義をいただきました。特別活動のような“子どもたちによる子どもたちのためのよりよい生活や人間関係づくり”の活動が、学級の支持的・受容的な風土を醸成し、さらには学力向上やいじめ等の未然防止にもつながるということ、そのためにも特別活動の特質を理解し、実践を積み重ねていくことが大切だということをお話いただきました。また、子どもたちの幸せのためにも、最後まで先生であり続けてほしいという、力強いメッセージもいただきました。

なお、今回の授業参観と杉田先生の講義は、初任者研修の課題研修会と合同で開催しております。お互いにより刺激を受けることができた有意義な研修会でした。